

2017 年度 生涯発達心理学 第 7 回授業のまとめ（解答）

ク ラ ス		学籍番号				
氏 名			講義日		講義回	第 7 回

第 6 講 幼児期の機能と発達

情動の発達

プルチックは基本的情動を受容と嫌悪、恐れと怒り、喜びと悲しみ、驚きと期待の対応する 8 種類をあげ、強さの程度を加えて（ ①3 次元立体モデル ）を提唱している。

第 7 講 幼児期の社会性

親子関係から仲間関係へ

4 歳頃になると（ ②仲間意識 ）が強くなり、特定の友だちと交流するようになる。

社会性の発達と遊び

パーテンらは友人とのかかわりから遊びの発達を 4 つの段階から示している。それは、1 人で遊ぶ「一人遊び」の段階から、同じ遊び並行して行うが子ども同士の遊びの関わりがない「並行遊び」、そして子どもどうして遊ぶが分業やリーダーによる統制が見られない（ ③連合遊び ）、目的を持ってルールや競争を持った（ ④協同遊び ）へと発達していくことを示した。

バロン・コーエンらはヒトの幼児において、他者の信念を理解できるかどうかを「サリーとアン」の誤信念課題」によって調査を行っている。その結果、（ ⑤5 ）～（ ⑥6 ）歳頃になると人の立場に立って考えることができるようになることを示した。

心の理論とは、簡単に言うと、○相手の心の中を（ ⑦推察 ）する能力、○他者が自分とは（ ⑧異なる意識 ）を持つと考えることができる能力のこと指している。

ホイジンガは「遊びの目的は行為そのものの中にある」と説明している。これは遊びとは遊びそのものが面白く、遊びの行為そのものを（ ⑨楽しむこと ）を意味している。

幼児期後半には「見立て」と「ふり」を用いてシンボルプレイ（ごっこ遊び）が盛んに行われるようになる。発達に伴い（ ⑩形態的類似性 ）が低くても見立てが行われるようになる。

発達に伴い遊びにも、実物を本物そっくりに遊びの中に取り入れた（ ⑪再現遊び ）、絵を描き、折り紙を折るなどの（ ⑫造形的遊び ）が現れる。